

14.4.26 筑波山新歓山行報告

M2 為本智行

①参加メンバー：16名(敬称略)

M4 荒川 濱崎 M3 田中 西村 M2 為本 堀江 後藤 高木 塙 C2 北村 鈴江
小松 中武 C1 上村 田尻 奥野

②行程

7:48 秋葉原駅～（つくばエクスプレス）～8:41 つくば駅（つくばセンター）9:00～（筑波山シャトルバス）～9:36 筑波山神社入口～10:00 筑波山神社～（御幸ヶ原コース）～11:50 御幸ヶ原～12:00 男体山 12:30～13:00 女体山 13:15～14:05 弁慶茶屋跡～14:40 つつじヶ丘～（筑波山シャトルバス）～つくば駅（解散）

③本文

天候にもめぐまれほどよい気温の中、当日は新入生 3 名を含む 16 人という大所帯での山行となった。余りにも人数が多いということで、登山口でパーティーを二つに分けて行動した。登山口には筑波山神社があり、参拝して全員の無事を祈ってから出発した。ゴールデンウィークの始めということもあって、道中はなかなかの数の登山者が見受



けられた。御幸ヶ原までのコースにはおよそ同じコースを通るケーブルカーが走っていたが、山行日和の新緑の季節を歩く気持ちよさはケーブルカーでは味わえなかったであろう。



途中地面に桜の花びらが散っている箇所があり、上を見上げると山桜が咲いていて都会ではシーズンの過ぎ去った桜をもう一度見ることが出来た。

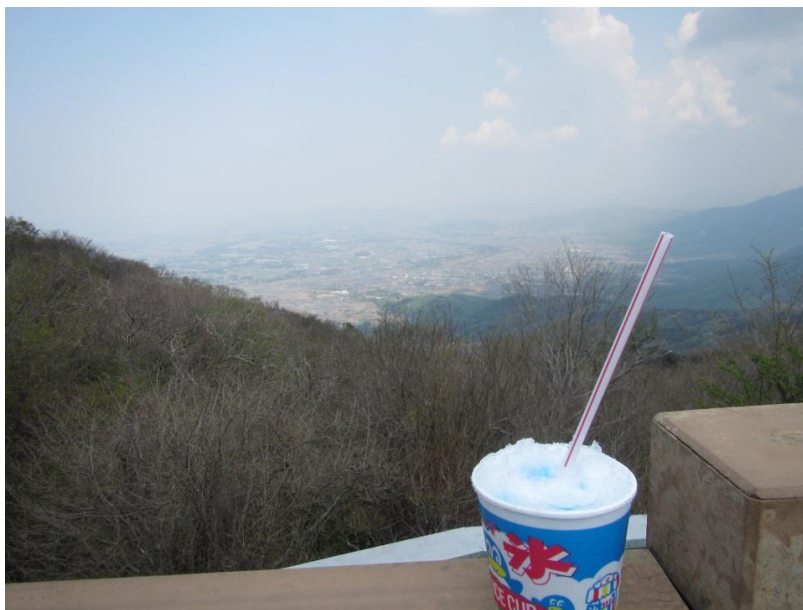


中腹にはケーブルカーのトンネル上を通る箇所があり、ちょうどケーブルカーが通過したためその赤い車体を写真に納めることができた。ここからもう少し進むと男女川(みながわ)の源流があり、ここでしばらく休憩を取った。男女川の源流はあまり水量の多いものではなかったが冷たい綺麗な水で、四月にしてはやや暑い中では癒やしとなった。

休憩後の御幸ヶ原までのコースは延々と階段の続く急な登りが続き、今回の山行中で最もきつい登りであった。御幸ヶ原に着くと土産物屋や食事処がいくつかあり、観光客であふれていた。御幸ヶ原は日差しが強く気温も高かったので、眼下に



広がる景色を眺めながらかき氷やソフトクリームで熱くなった体をクールダウンした。まだ山頂ではないとはいえ、ここからの見晴らしもなかなかのものであった。二つに分かれて



ていたパーティーはここで合流して男体山山頂へと向かったが、御幸ヶ原から男体山へ向かう道中はさらに登山客が増えたこともあり、ゆっくり目のペースで山頂へと向かった。

御幸ヶ原から 15 分ほどで男体山の山頂に着くと、登山口にあった筑波山神社の本殿があった。女体山の山頂にも本殿があった他、女体山山頂からの下山ルートには小さな社がかなりの数あり筑波山が霊山であることが感じられた。本殿で再び参拝したりおみくじを買ったりしたあとは、山頂はケーブルカー経由の観光客も多く広さもないため、写真撮影を終えると女体山を目指した。



女体山山頂は今回の山行の最高地点なこともあり、御幸ヶ原での見晴らしよりもさらに良い展望であった。周囲に他にもないため、かなり遠くまで見渡すことができた。冬の空気の澄んだ時であれば富士山も見えするという。山行計画では一時間山頂にいたことになっていたが、そんな広さもないので十分ほどで下山を始めた。このため計画よりかなり早めに下山することとなった。



下山は再びパーティーを二つに分けての行動となった。女体山からの下山道は、登りとは違い大きな岩の露出した登山道となっていた。登山道わきにも大きな岩が数多くあり、それらのほとんどに名前が付けられていて見所の多いコースとなっていた。説明の板を読んでも納得のいかない岩から命名に思わずうなずいてしまうようなものまで様々であった。岩の名前を楽しみながらつつじヶ丘付近まで下りてくると、登山道の両脇の木に小さいピンク色の花がたくさん咲いていて目にも楽しむ事ができた。



御幸ヶ原での休憩中に雷鳴が聞こえ雷雨を警戒したものの、最後まで天気に恵まれたままつつじヶ丘まで下山することができた。観光客も多く観光地的な面も強い山であったが、気温も天気もちょうど良い中 16 名もの部員が集まった山行は満足のいく物となったのではないかと思います。